

地方小出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

関谷徳夫著 『復刻版 吉里吉里語辞典』 出版顛末の記

文・小林達也

岩手県下閉伊郡大槌町。東日本大震災以前は、多くの人が聞いたこともない地名だったと思う。これから書く小文はその大槌町吉里吉里(きりぎり)地区で編まれていた『吉里吉里語辞典』復刻のあらましである。

発端

2012年9月、日本都市社会学会という規模の小さな学会に出席していたとき、明治学院大学の浅川達人先生から声をかけられた。「ちょっと相談があるのですが」。とりわけ親しい先生ではないので意外な感じがした。

「私と明治学院大学が東日本大震災の被災地でボランティア活動しているのが(岩手県)大槌町の吉里吉里というところなのです。」「はい、存じ上げています。」「実は、そこに『吉里吉里語辞典』を自費出版されていた方がいらっしゃるのですが、今回の東日本大震災でそのほとんどが流失してしまったのです。でもボランティア学生が流出物展示のなかから1冊見つけだし、それをスキャンしてデータ化しているのです。」

それでおおよその察はついた。その『吉里吉里語辞典』を復刻したいので、版元になってほしいということなのだ。話を伺うと500頁を超える大部とのこと。しかも、どこからも製作費はでない。弊社だけで製作費をまかなうことを考えると、どうしても二の足を踏まざるをえない。しばらく考えて「200部予約がとれて、定価4000



A5判・560頁・本体価格4000円

円前後でよろしければ検討してみましよう」と提案した。企画自体は興味深いし、なによりも大好きな井上ひさしの小説『吉里吉里人』の名前の由来の地である(小説では宮城との境だが)。この提案に浅川先生も了解された。

刊行に向けて

幸い、浅川先生たちの尽力に加え新聞に掲載されたこともあり、200部を超える予約が集まり『復刻版 吉里吉里語辞典』刊行に向けてスタートが切られた。

入力や校正は浅川先生とボランティアグループが担当し、組み版・印刷・製本は原本を出版された釜石市の株式

会社東海印刷所さんが担当されたとのこととなった。

『復刻版』では原本にはなかった鼻濁音を表記するなど組が複雑化し、組み版を担当されたオペレーターさんは本当に大変だったと思う。なんとか、見通しがたつたと思った今年の2月初め、東海印刷所さんから連絡があり、「年度末の仕事で印刷製本が間に合いません。そちらでお願いできませんか」。

3月11日に刊行をあわせる予定ですすめていたので、この事態にはかなりあせった。東京の印刷・製本所も年度末進行で、1日入稿が遅れると納品が数日遅れるというような状態にあった。あわてていつもお願いしている印刷会社に連絡。幸い営業担当がすぐにスケジュールを調整してくれて、どうにか3月11日に間に合わせて刊行することができた。

『吉里吉里語辞典』を読んで被災地へ

本ができて一月。NHKの朝ドラ「あまちゃん」が始まり、「じえ、じえ、じえ」を筆頭に、岩手県三陸海岸の言葉が話題になっている。聞いていて懐かしくも親しみある言葉と感じられるが、さらに『復刻版 吉里吉里語辞典』をひもとくと、言葉の背景にある三陸海岸の人々の生活を読み取ることができる。

項目を見るだけでも、海や漁、魚に関する項目が極めて多いことで、漁が盛んなことがわかる。たまたま吉里吉里を訪れたとき話しかけてこられた老人は、「若い頃は遠洋漁業の船に乗り込み、南米・北米・アフリカ大陸など、世界中でかけていった」と昔を語ってくれた。とうの昔からこの地はグローバル化されていたのだ。この本にはそういった吉里吉里の人たちの暮らしそのものが、そここに埋めこまれている。

震災のがれきもあらかた片付き、一見復興が緒についたと思われる吉里吉里だが、事態はそこから一步もすすんでいない。目に見える形での復興がなされていないのだ。

本当にささやかではあるのだが、『復刻版 吉里吉里語辞典』は目に見える復興の一つの形であるし、そのことを少しでも手伝えたのではという気持ちはある。

言葉は生きており、この辞典に収録されていても今では使われなくなった言葉も結構あるとのことだ。でも、活字として記録されることで津波の甚大

な被害にあった三陸海岸の小さな町の人たちがどのように考えどのように暮らしてきたか、他の地に住む人の目にも触れることができるようになった。そのことは、この地に住む人にとって、さらなる復興への希望ともなるだろうし、地域への愛着や誇りともなるだろう。

これからの時期、大槌町ではシラス漁が盛期を迎えるとのことだ。生シラスをご飯にのせて食べるとたまらなく美味しいと著者の関谷さんは言う。カキのシーズンも始まった。ウニも当地に来た人だけの特権があるよ、とのこ

とだ。春から秋にかけては「うんめえも うんめえ」(55頁)(譬えようもないほどうまい)ものばかりだそう。冬は冬でイカの「膾煎り(ふいり)」(414頁)(イカの内臓と身を野菜と一緒に煎った料理)が酒にもご飯にも相性抜群だった。

ぜひ『復刻版 吉里吉里語辞典』で三陸海岸の被災地へ思いをはせ、できれば實際足を運び、当地の美味を満喫して(できればささやかでもお金を落として)いただければと心から思う。

*

(こばやしつや／ハーベスト社代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『考える人・鶴見俊輔』 ●黒川創／加藤典洋著



ハーバード大学在学中に日米開戦となり、1942年、米・移民局から呼び出され「おまえの信条は何か」と問われた鶴見俊輔は、「アナキストです。だから、このような帝国主義戦争では、どちらの国家も支持しない。」と答え、危険思想の敵国人として収監されて拘置所に送られ、そこで卒業論文を書く。鶴見俊輔(1922年生)は、このエピソードにもみられるように、日本人とし

ては非常に珍しい本物のリベラリストである。本書では、鶴見と親しく交流した二人の著者によって、考える人、書く人、行動する人として鶴見の魅力を多面的に浮き彫りにする。なお戦後、プラグマティズム哲学の実践として雑誌『思想の科学』を創刊する。

◆819円・A5判・91頁・弦書房・福岡・2013/3刊・ISBN978-4-86329-087-7

『避難ママ ー沖縄に放射能を逃れて』 ●山口 泉著



原発事故による一次被曝の影響から唯一免れている地として新たな注目を集めている沖縄。放射能汚染から子どもを守りたいと、沖縄へ逃れた女性たちが今語り始めた。皆、「子どもはみんなで育てる」という感覚があり、子連れに優しい土地だと口を揃える。一方で移住前は意識しなかった米軍常駐による沖縄の問題にも目を向けていく。インタビューの著者は男性の作家で、女性

たちと同様に東電と日本政府に怒りを燃やしているが、最後の6人目に登場するFさんの「「F3・11」以後の人生がその前より良い人生だったと思いたい」という力強い言葉に希望を見出す。女性たちの思いや行動が自分の頭で考えることの大切さを気づかせてくれる。

◆1470円・四六判・249頁・オーロラ自由アトリエ・沖縄・2013/3刊・ISBN978-4-900245-15-0

『幸せに暮らす集落 ー鹿児島県土喰集落の人々と共に』 ●ジェフリー・S・アイリッシュ著

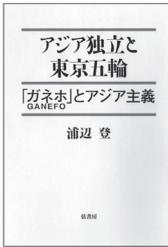


薩摩半島南西部の山奥、20軒27人が暮らす鹿児島県南九州市土喰(つちくれ)。この集落にアメリカ人の著者が移り住んで15年。平均年齢77歳、65歳以下は著者を入れて3人のみ。年を取って数も多くなれば国籍も人種も関係なくなると冗談めかして記すが、集落の人々は違和感もなく著者を受け入れ、町内会長というべき小組合長を二度も委ねた。畑でのおしゃべりや寄合い、年

中行事を楽しみながら、無理をしない程度に気合を入れ、互いを気遣い、助け合って自分たちの力で生きる平凡で幸せな日常。心豊かな暮らしとはこうしたことかと気づかされる。そんな場所を「限界集落」などと呼ぶのは失礼千万というもの。

◆1890円・A5判・215頁・南方新社・鹿児島・2013/1刊・ISBN978-4-86124-250-2

『アジア独立と東京五輪 - 「ガネホ」とアジア主義』 ●浦辺 登著



書名の副題にある「ガネホ」とは新興国競技大会のことで、1963年、アジア・アフリカを中心とした47か国、2564名もの選手らが参加して、インドネシアで開催された。しかし、このことが災いして、翌1964年の東京オリンピックには親日国インドネシアは参加できなかった。ガネホをオリンピックに対抗するものとして、五輪委員会が危機感を持ったためである。本書は、それら

の背景となった東南アジア各国、とりわけインドネシアと日本の関係、インドネシアと欧米各国との関係はどうだったのかを追及する。とにかく無視されがちなこれらの関係について、室町・戦国の時代までさかのぼって説き起こし詳述している点が出色である。

◆1890円・四六判・184頁・弦書房・福岡・2013/2刊・ISBN978-4-86329-086-0

『久留米 かすり 本』 ●エフ・ディ編



福岡県の筑後地方、そこに200年以上続く伝統の織物、久留米絣があります。その工程や、それに携わる人たちの姿をまとめたのが本書です。久留米絣では、図案をもとに糸を染色し絣が織り上がるまでの工程の一部が文化財にもなっています。柄も特徴的。伝統的な藍色をはじめ様々な色に染められた糸が織り成す柄は、伝統的なものから現代的なものまで幅広く、美しい。そして何よ

りそれに携わる人々。図案・染色・織り・流通など各工程に携わる人たち、大ベテランから若手まで、共通する思いはもっと良いものを作り、絣の良さを伝えたいということ。本書は全編カラーで、より久留米絣の魅力が伝わってきます。

◆1890円・A5判・127頁・エフ・ディ・福岡・2013/2刊・ISBN978-4-904342-09-1

地小出版
方流通センター

流通センター

ジャンル別
新刊案内

2013年3月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額(税込)表示です。

【雑誌】

- ◆faura 39 ナチュラルリー編 A4 80頁 1000円 ナチュラルリー [北海道] 978-4-503-19802-0 13/03
- ◆ゆきのまち通信 145 企画集団ぷりずむ編 A5 49頁 500円 企画集団ぷりずむ [青森] 978-4-503-19797-9 13/03
- ◆Radiation Emergency Medicine Vol. 2 No. 1 弘前大学出版会編 A4 88頁 1100円 弘前大学出版会 [青森] 978-4-503-19809-9 13/03

- ◆GREEN REPORT 399 廣瀬 仁編 A4 192頁 2800円 地域環境ネット [埼玉] 978-4-905457-31-2 13/03
- ◆響き合う街で No. 64 やどかり出版編 B5 60頁 1260円 やどかり出版 [埼玉] 978-4-503-19800-6 13/02
- ◆かまくら春秋 No. 516 田村 朗編 B6 90頁 290円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0592-8 13/04
- ◆星座 歌とことば No. 65 伊藤 玄二郎編 A5 151頁 1050円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0959-9 13/04
- ◆くらしと教育をつなぐ We N

- o. 183 稲邑 恭子編 中村 泰子、冠野 文編 A5 80頁 800円 フェミックス [神奈川] 978-4-903579-49-8 13/04
- ◆仏事 No. 150 清水 祐孝編 A4 100頁 1575円 鎌倉新書 [東京] 978-4-503-19799-3 13/03
- ◆仏事 No. 151 清水 祐孝編 A4 104頁 1575円 鎌倉新書 [東京] 978-4-503-19816-7 13/04
- ◆寺門興隆 No. 172 矢澤 澄道編 A5 197頁 1155円 興山舎 [東京] 978-4-904139-75-2 13/03
- ◆子どもの文化 No. 504 片岡 輝編 A5 47頁 305円 子どもの文化研究所 [東京] 978-4-503-19790-0 13/03
- ◆茶道の研究 No. 688 三徳庵編 A5 84頁 525円 三徳庵 [東京] 978-4-503-19791-7 13/03
- ◆東京かわら版 No. 473 佐藤 友美編 204mm×108mm 158頁 630円 東京かわら版 [東京] 978-4-503-19813-6 13/03
- ◆俳句四季 No. 428 松尾 正

売行良好書

期間：2013年3月16日～4月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『ラフカディオ・ハーンの英語教育』3360円・弦書房
- (2)『日本に生きる北朝鮮人 リ・ハナの一步一步』1365円・アジアプレス・インターナショナル出版部
- (3)『むらの英雄』1470円・瑞雲舎
- (4)『服部みれい詩集 だからもう はい、すきですという』1365円・ナナロク社
- (5)『おはなし チムとトーク』1260円・リープル
- (6)『松居直講演録 こども・えほん・おとな』1050円・「絵本で子育て」センター
- (7)『長寿県長野の秘密』1260円・しなのき書房
- (8)『あほな奴ほど成功する』1050円・星湖舎
- (9)『ギャンブル酒放浪記』1680円・本の雑誌社
- (10)『百歳がうたう 百歳をうたう』500円・鉦脈社
- (11)『土の話』1365円・石風社
- (12)『考える人・鶴見俊輔』819円・弦書房
- (13)『新羅之記録【現代語訳】』1785円・無明舎出版



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 4月号』630円・東京かわら版
- (2)『映画俳優 平田昭彦』1050円・くまがい書房
- (3)『フレッシュ先生のための「はじめて事典」』2100円・学芸みらい社
- (4)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版
- (5)『戦国史』1680円・上毛新聞社
- (6)『考える人・鶴見俊輔』819円・弦書房
- (7)『フリースタイル 22』932円・フリースタイル
- (8)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社
- (9)『螺旋海岸 notebook』2100円・赤々舎
- (10)『螺旋海岸 album』8400円・赤々舎

【ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本—センター扱い図書】※税込価格

- (1)『石神秀幸のラーメンマップ東京1』1050円・幹書房
- (2)『植物あそび図鑑』1890円・南方新社
- (3)『宮崎学 自然の鉛筆』2625円・NOHARA
- (4)『松居直講演録 こども・えほん・おとな』1050円・「絵本で子育て」センター
- (5)『いつか別れの日のために』1575円・澤標
- (6)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版
- (7)『長寿県長野の秘密』1260円・しなのき書房
- (8)『札幌狸小路グラフィティ』1470円・亜璃西社
- (9)『地域力で活かすバイオマス 参加・連携・事業性』2310円・海鳥社
- (10)『歯科詩集』1260円・かまくら春秋社
- (11)『消えた琉球競馬』1890円・ボーダーインク

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。

URL: <http://neil.chips.jp/chihosho/> ツイッター公式アカウント: @local_small

トピックス — ★★

▼訃報です。性的虐待をテーマにした「花々の墓標」(2008年ヘルスワーク協会)等の作品がある作家の佐藤亜有子さんが今年の1月5日に亡くなっていたそうです。公表されたのは4月5日のことでした。1969年岩手県生まれ。『ボディ・レンタル』が第33回文藝賞優秀作。短編「葡萄」(『首輪』所収)は第117回芥川賞候補作。

▼よろしければ当センターの新刊近刊案内ブログをご利用ください。<http://chihosho.neil.chips.jp/> 出版社提供の書誌データおよび紹介文、書影をアップしています。書評情報も随時掲載しています。/また、新刊データをほぼ毎日、新刊速報ブログにアップしております。<http://books-neil.seesaa.net/> ただしリンク先ネット書店でこのデータが反映されるには、少し時間がかかるようです。/当センターの代表、川上賢一のコラム「地方・小出版流通センター通信」<http://neil.chips.jp/chihosho/center/index.html> として本誌『アクセス』のバックナンバーweb版 <http://neil.chips.jp/chihosho/acj/acj-bk.html#saishin> 等々、お時間が空いた時にでも、パソコンやタブレットで覗いていただけたら幸いです。/当方のtwitter公式アカウント @local_small もよろしくお願いたします。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

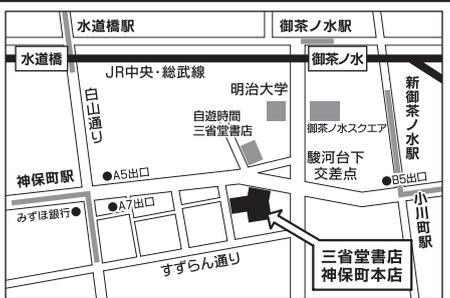
BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL: <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。



水道橋駅、御茶ノ水駅、JR中央・総武線、明治大学、自遊時間三省堂書店、御茶ノ水スクエア、駿河台地下交差点、新御茶ノ水駅、小川町駅、みずほ銀行、すずらん通り、三省堂書店神保町本店